

# 高崎高校同窓会報

2013

No.47

発行所／高崎高校同窓会 〒370-0861 高崎市八千代町2-4-1 TEL.027-324-0074

平成25年11月30日

## 4人から 22人へと復活となった マンドリン部(TMO)



# あれから 60 年 ラグビー部国体優勝



高崎駅前で行進を待つ三年生（昭和 28 年） 写真提供：山口英雄氏

昭和28年(1953)10月26日愛媛大学グラウンドで行われた第8回国民体育大会四国大会高校ラグビー競技の決勝・高崎高校対北海高校戦は、強豪北海に先制された高崎が終盤に追いついて合い譲らず、3-3でノーサイドとなり両校の優勝が決まった。創部から8年目の快挙であった。だが、選手達はやっと追いついての両校優勝であり、喜びに狂喜するというより、試合が終わってほっとしていたという。

ところが学校ではこの報に歓喜し、

生徒会が中心になり高崎駅に出迎え市中行進を行うことになった。何も知らない優勝フィフティーンは、それを倉賀野駅まで迎えにきた生徒会役員に知らされビックリしたという。

高崎高校ラグビー部は終戦直後の昭和21年に創部されたが、この経緯についてはラグビー部の父ともいべき高草木喬(第14期)氏によれば、『終戦直後高崎中学校の生徒が誇りと希望を失い放心したように繁華街をほう徨している姿を見かけ先輩の一人として

私は心を傷めたのである。～私は～高崎中学校の富田先生を尋ね「生徒にラグビーをさせ、生気をよみがえらせてやりましょう」と意気投合』(「ラグビー二十年」より)し、ラグビーは乱暴なゲームと汚れていた内藤校長を説得して創部にこぎつけた。22年には明治大学ラグビー部OBの岡田由重氏(後、教諭)を監督に迎え強化を図り、着々と成果を上げた。

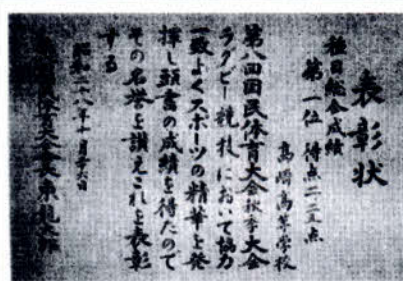
そして、創部2年目の22年選手権大会予選で前橋中28-3で降してから32年国体予選で桐生工に0-17で負けるまで、県内101連勝し、10年にわたり無敵を誇った。この間国体に6度、選手権大会に3度出場し、28年の優勝の後、30年の国体でも12-0で水戸農を退け2度目の優勝を飾っている。その後も34年国体、35・57・59年に選手権大会に出場、強豪校の地位を保っている。

かつてラグビーは高崎の「校技」ともいわれ、体育の正課とされ、クラス対抗も活気があふれ、体育着は紺白のラグビージャージーで、卒業記念品に校章入りのコーナーフラッグが配られ、まさにラグビー一色だったのだ。

今年はあと一歩!あの栄光を取り戻す気概で奮闘してくれ。



両大会優勝モニュメント



凱旋パレード（昭和 30 年） 写真提供：高崎市民新聞社

## ご挨拶



高崎高等学校同窓会長(57期)

### 佐藤 和徳

同窓諸氏の御健勝、御活躍はまったく同慶の至りです。

最近の高高在校生は大変にお行儀が良い。バンカラの気風は今でも残っているが、我々の頃には、もう少しワルガキ風な奴も居た。若い婦女子が、男言葉で聞き苦しい言動をする今どき、

少しお行儀が良過ぎるのではと心配になる程である。講堂でも私語一つないし、<sup>いにし</sup>古えの海軍兵学校も、か<sup>い</sup>くやと思われる程、姿勢も揺れないし乱れない。2時間に及ぶ講演でも、しかりである。それでいて決して、ひ弱な印象も与えない。その高高生の約2/3が“自分がダメな人間、あるいはダメな人間ではないか”と思っている。驚きである。

マナー、礼を失しないというのは将来、日本を背負って起つ人間には絶対必要であろう。同様に体力、気力、他者から学ぶ力も不可欠であろう。

72期の下村博文文科相もその事を充分見越して、“心のスイッチをオンにする”、“目標設定の重要性”、“志を持つことの大切さ”を講演で力説された。

受験勉強の比率が高まる中で、社会で生きて行くのに役立つ“実学”、それを得るのに必要な読書、思考、最大の

財産となる生涯の友を得る為に何かをトコトンやってみることを、在校生にアドバイスされた。そして色紙に“意思あるところ必ず道あり”と記して永く校長室を飾ることとなった。

馬齢を重ねた私にとっても、日本の行く末、少子高齢化への対応、負の遺産をなるべく残さない、などが気がかりである。若者の教育がしっかりした方向性でなされることが、肝要であると痛感させられた。

そのためにも教育改革が必要なのだと得心させられた。

高高卒業生の更なる活躍、社会への貢献を期待したい。

医師、第一病院院長  
群馬県医師会副会長

## 960杯のカレー



高崎高等学校校長

### 羽鳥 進一

同窓会並びに会員の皆様には、平素から本校の教育活動に対する温かいご理解とご支援・ご協力をいただき、お陰様をもちまして教育活動全般に確実に成果をあげているところであります。

さて、私は着任時よりこれまで、毎年

三年生全員と10人くらいのグループで、一度ずつ昼食をともにしました。前任の藤倉校長が最後の年に、かつて中野校長が行ったという話を伝え聞いて始めたことを引き継いだのですが、3年間で960人と会食したことになります。

メニューはカレーのみ。多いときには週4回も食べることになります。カレーはかなりの高カロリーだということを、ズボンのベルトの穴で実感しました。

その一方で、校長というのは普段生徒と接することが意外と少ないので、直接語り合う機会を持てたことは大変楽しくかつ有意義でした。

会食しながら、部活動の活動状況や意気込みを聞くと、試合を応援するときに熱の入りが違ってきます。生徒や翠巒祭実行委員会から準備の苦労話などを興味深く聴くこともありました。将来の夢を熱っぽく語ってくれる生徒

もたくさんいました。太田や沼田といった遠方より通っている生徒、玉村や榛東よりはるばる自転車で通ってくれる生徒の通学の様子を知ることができました。父親や母親が私の教え子だということを伝えられたことも幾度となくありました。

校長として学校経営を考えるときに、ややもすると生徒を集団としてのみ捉えがちです。その点で個々の生徒の様子を知る機会を持てたことで、改めて一人一人の生徒を大切にするという教育の原点を確認できました。心なしか廊下ですれ違うときの生徒のあいさつや表情も違って来たように感じます。

会食の最後には、一人一人に決意を込めて志望大学を述べてもらいました。来春にそれぞれの志望が見事に開花してくれることを切に願います。

潮流

# 土屋文明の望郷歌と その心



おにかた てるお  
**鬼形 輝雄**

元群馬県立下仁田高等学校長 (64 期)

人は誰でも故郷を恋しくなる時があるものです。生まれた土地を一生離れず生涯を終わったとしても、生を受けた土地への愛着の念は、その時々には彷彿として湧き上がるものです。ましてや志を立てて故郷を離れた人にとっては、それはやがて望郷の念として心を掻き立てられ、例えば、故郷の山河、生活、家族、兄弟、友人などのことが折りに触れ脳裏に浮かび胸中をかすめるであろうことは十分理解できます。それでも社会の第一線で活躍している時期は、その仕事の充実さと若さがそのような感慨を寄せ付けず、特別なことがない限り、ほとんど無縁でありましょう。しかし、ある一定の時間が経過し、慌しさから開放されて新しい視点で物事や生き方を見つめようとしたとき、人は自分の意思と関わりなく故郷を懐かしく恋しく思うようになるのかもしれません。

近代日本の代表的歌人の一人に、100歳の天命を全うした本県出身、高崎高校(当時は高崎中学)同窓生の土屋文明がいます。文明は誠に骨太な人生を送ったと私は捉えています。その文明にも故郷をテーマにした歌が多数あります。文明は故郷をどのように歌っているのか、その望郷歌にスポットをあて、偉大な歌人・土屋文明の来し方と故郷を思う心を改めて考えてみたいと思います。

## ◆ 一 ◆

此の見ゆる地平霞むにあくがれて出で行きし日のかへることなし  
(続々青南集)

明治42年(1909)4月、伊藤左千夫を訪ねて上京する時の回想歌です。文明は、現在の高崎市保渡田町(当時の西群馬郡上郊村保渡田)に生を受けますが、この地は東・西・北の三方が山に囲まれて南のみが遮るものが無く明るく開けており、まさに「地平霞む」であり、志を立てて上京していく文明・19歳の決意が「あくがれて」によく表われています。南方に開けたその風景の先には、自分の可能性を広げる場所—東京がある、と文明は心に誓い育んでいたのだ

しょう。

文明は上京後、左千夫の牛舎で働きながら文学修行を志し、第一高等学校、東京帝国大学に入学、様々な文学経験を積むことになります。そして帝国大学卒業の翌年、27歳で歌誌『アララギ』の選者になり、40歳からは、斎藤茂吉に代わって編集発行人となり、五味保義に引き継ぐ62歳まで短歌の指導、「アララギ」の運営に当たっていました。この間20代後半から30代前半は教育者として諏訪・松本に赴任、50歳前後からは『万葉集』の研究、新聞各紙の歌壇の選者、さらに歌集や歌論書の刊行等々精力的な活動を行っています。特に万葉集研究については、その成果を昭和24年から31年の間に『万葉集私注』(全20巻)として発表しています。59歳から66歳のことでした。今でこそ60代はまだまだ元気ですが、当時の社会状況からみればこの年齢での活躍ぶりは目を見張るばかりで、誠に心身ともに健康で元気だったと推測できます。90歳を超えてからも歌集や歌論書の発行、講話等も行っており、私が文明の人生を「骨太の人生」と捉えているのもここに起因しています。

しかし、文明は上京して以来、数えるしか故郷の土地を踏みませんでした。文明にとって故郷はどんな所として捉えられていたのでしょうか。

## ◆ 二 ◆

毛の国はいつもかわける冬原あからさまにも吾が村の見ゆ  
(往還集)  
ふるさとの盆も今夜はすみぬらむあはれ様々に人は過ぎにし  
(山谷集)  
故郷の山の写真を引きのばし雲ある空にこひつつぞ居る  
(少安集)

これらの歌からは、文明が純粹に故郷を追慕している心が読み取れるのですが、次のような歌も登場します。

父の代よりいりくめる金のいきさつに帰る日なけむあはれ故さと  
(山谷集)

吾が父が石灰やきて損したる青倉山に夕日かがやく  
(往還集)

道の上に古里人に恐むや老いて行我を人かへりみず  
(自流泉)

故郷を思うとき、それはすべてが楽しいことばかりではないということ、成人した大人であれば誰でも気付くことです。文明にとっても故郷は父親の事業の失敗などで辛く悲しい場所でもありました。それでも故郷は心の拠り所であり、榛名山を背後に控えた桑畑の中の生家、少年時代の我が身を支えてくれた家族、周囲の人々、地域に根付いた祭・風習、近くを流れていた井野川での川遊びなどが、骨太に見えるその人生の折々に、ふつふつと湧き上がっていたのに違いありません。文明の望郷歌は、ある一定の時間にとどまらずに見い出すことができます。

### ◆ 三 ◆

私は一度だけ土屋文明先生にお会いしたことがあります。

大学1年の冬、東京神田神保町の交差点角にある岩波ビルの9階の集会室。短歌結社「アララギ」の月1回の合評会の席で、私の短歌を土屋先生に直接指導していただくことになったのです。私は学生時代の4年間「アララギ」に所属し合評会にも時々出席していましたが、土屋先生にお会いできたのはこの時が最初で最後でした。先生と私の母校が同じということを知っていた事務局の方が、特別の計らいをしてくれたのでした。土屋先生の短歌指導は極めて厳しいということは定説となっていましたので、何を言われるのか身を細くして短歌を書き記した原稿用紙をそっと差し出し、その言葉を待っていました。

「君は出身はどこなの」

「はい、群馬です。高崎高校を出ました」

「ほう、そうかい、そうかい。ほうー」

何度もそう言ってテーブルの上に身を乗り出し、私の顔や姿をまじまじと眺めました。私も開き直って先生の顔を直視したのですが、まず口の上の白い髭が目飛び込み、そして歳を召しながらも何とも風格のある、やや頬のこけた卵形のお顔、そして何よりも目付きの優しさが私の緊張感を一気に解きほぐしてくれました。そのあとの会話は詳細には覚えていませんが、私の実家の職業や家族のこと、最近の群馬の様子などについて、しっかりと口調で聞かれたことを記憶しています。この時土屋先生は81～82歳ごろ。群馬・吾妻川戸での6年半の疎開生活を経て東京青山南町に帰り住み、安住の地を得て歌壇の最長老として活躍していた頃ですが、その一方で故郷の思いが強まっていた頃でもありました。今にして思えば、偶然目の前に座った故郷・群馬と母校を同じにする私に、もしかしたらある種の懐かしさを感じてく

れていたのかもしれませんが。

### ◆ 四 ◆

青き上に榛名をとほのまぼろしに出でて帰らぬ我のみにあらじ  
(青南集)

生前、自分自身の歌碑建立の許可を出さなかった文明が、唯一認めた歌碑が平成2年(1990)に故郷群馬町(当時)保渡田の薬師公園の一角に建てられました。100歳の誕生日を迎える2週間ほど前の9月5日に、妹の八千代氏、三女の静子氏、「アララギ」編集発行人の小市巳世司氏等を迎えて除幕式が行われました。77歳の時に刊行した「青南集」の中の「5万分の1地形図榛名山」からの一首で、自分の故郷の地図を見て歌ったもので感慨胸に迫るものがあります。この頃の文明はひたすらベッドの上での生活となりますが、付き添う子どもたちに話すことのほとんどは、故郷の保渡田のことだったそうです。そして、その約3ヵ月後、歌に捧げた満100歳の生涯を閉じました。

何を思ひ貧しきふるさと出で来にし人助けずば行き倒れけむ  
(青南集以後)

### ◆ 五 ◆

今年の1月16日、私は生まれて初めて皇居宮殿に向いました。平成25年の宮中「歌会始」に出席するためです。

いつせいに蚕は赤き頭立て糸吐く刻をひたすらに待つ

(平成25年詠進歌)

皇居周辺は2日前に降った雪がそのまま溶けずに残っていて一面の銀世界。荘厳な佇まいを見せる広大な宮殿。深閑とした空気が張り詰めるなか、古式に則って「歌会始」は始まりました。入選した私の詠進歌は、養蚕農家に育った私が、かつて養蚕の手伝いをしていた時に体験したことを詠んだものです。「歌会始」は宮中の古い伝統行事で、天皇皇后両陛下をはじめ、皇族、召人、選者、一般の入選者、さらに来賓として各国の要人や各分野の第一人者が列席し、極めて厳粛な雰囲気の中で進行しましたが、一方で、宮中の正月の儀式にふさわしい華やかさもありました。今回の召人は岡野弘彦氏でしたが、土屋文明も昭和38年、73歳の時に召人として出席しています。選者も9年務めました。養蚕風景の一場面を詠んだ私の歌を、かつての日本一の養蚕県群馬が輩出した偉大な歌人・土屋文明はどのように評価してくれているのでしょうか。

100歳と2ヵ月という長い人生を生き抜き、最後まで作歌活動を続けた土屋文明の精力的な活動の基盤には、故郷・保渡田への思いがあったからこそと、今改めて思うのです。

※文中、人名について敬称を付けたところと無いところがありますが、文の内容・構成上、使い分けて表記してあります。



神宮球場にて

## 戦時下の野球の思い出



大山 吉造

《語る人》大山 吉造(44期) 《聞き手》田端 稔( )内は田端註

◎大山さんは昭和15年(1940年)高崎中学校へ入学、20年(1945年)卒業しましたが、この在学中は日中戦争から太平洋戦争という戦時下で、平時の学校生活では味わえない経験をしていると思います。また、野球部に所属しており、厳しい状況におかれた野球部についても実感していると思います。今日はそんな状況下的高中時代のお話をお伺いしたいと思いますので、よろしくお願いします。まず始めに大山さんと野球の出会いについてお願いします。

《大山》 私は群馬郡長野村(現在高崎市長野学校区)出身です。当時(昭和10年代前半)は長野村では野球はやられてはおりませんでした。私が小学校5年生の頃近所に高崎から引っ越してきた鈴木さんが高崎商業の野球部に入っていて、その人の手ほどきでキャッチボールや三角ベース程度はやるようになりました。当時高商は強くて。高商が北関東大会で足利工に勝って甲子園出場を決めた試合(昭和15年)には、自転車で敷島公園まで応援に行きました。

◎高崎中学野球部へは、どんな経緯で入ったのですか。

《大山》 きちっとした指導をうけたことはなく、プレーをしたこともないので、中学校で野球をする気はありませんでしたが、1年生の秋頃クラス対抗の試合でキャッチャーをしていると、当時4年生の福田さん(栄一・41期)が「俺が卒業するとキャッチャーがいなくなるので、お前野球部に入れ」と強く誘われて、入部することにしました。

◎それでは本格的に野球を始めるのは、昭和16年ということになりますね。この年は対米英戦争が始まる年ですが。野球部の活動に何か変化はありましたか。

《大山》 特別に変化はなかったと記憶しています。私は補

欠で県大会に出場しましたが、準決勝で桐生中学に負けてしまいました。優勝したのは桐中でしたが、戦争目前の情勢のため全国大会は中止になってしまいました。私たちは負けてしまっていたし、全国大会が中止になってもこのような緊迫した情勢ではしょうがないかなという気持ちでした。私にとっては、新米キャッチャーとして、金森さん(甲子夫・42期)の剛球を受けるのに精一杯で、プレー以外のことには気が回りませんでしたね。

◎この時期多くの学校では野球に対する風当たりが強く、また物資不足でも苦勞し、学校によっては野球部の解散もあったようですが、高中ではどうでしたか。

《大山》 確かに他校では休部や解散するところが多かったようですが、高中では配属将校(軍事教練指導のために学校に駐在していた軍人)からのいやがらせや干渉もなく、これまでどおり自由に活動できておりました。ただ17年頃になると、金属の供出のためスパイクの靴底の金具まで外されるようになり、ボールは毎日家に持ち帰り切れた縫い目を繕いました。ただ、私たちバッテリーには定期的に新しいボールが支給されて、そう不自由はしなかったように記憶しています。

◎そうですか。当時とすれば高中は恵まれていましたね。ところで、16年に中止になった全国大会が、17年6月になって急遽実施されることになったのですが、これには高中はどのように対応したのですか。

《大山》 先に話したように、私たちはずっと練習を続けていたので問題なく対応できましたが、県下では休部や解散した学校が多く、また、たとえ代表になっても関東大会が行われる東京へ選手を送る余裕のない学校がほとんどで、県予選

出場辞退が相次ぎ、結局ずっと練習を続けていた高中と桐中が県代表として関東大会に出場しました。

◎この全国大会はこれまでと違って文部省が主催し、戦争最中ということで、さまざまな特殊ルール、例えば最後まで戦う敢闘精神を養うために、選手交代を認めないとか、サイレンでなくラッパで試合を始めるとかあったようですが、関東大会ではどうでしたか。またこの大会の思い出もお話し下さい。

《大山》 この年の全国大会は出場高数を絞ったため地方大会の再編が行われ、北関東代表は群馬、栃木、茨城、埼玉で戦うことになりましたが、大会は北関東・南関東合同の関東大会として東京の神宮球場で行われました。そして決勝に進出した南北2校が南・北の代表となりました。

当時高中野球部には普段は監督がおらず、大会が近づくと6大学や東都の現役学生をコーチとして招いて、このコーチが監督として大会に臨んでいたもので、このときも中央大学の選手に率いてもらいました。

関東大会ではこれまでと違った特別なルールはなかったと思いますが、変わったといえば、ユニフォームの校名の「TAKACHU」を「高中」に変えさせられ、大会使用球がやや小さかったように記憶しています。(ジュニアボール＝中学生の体力に合わせ、また資源の節約の見地から東京の関係者が考案、関東地区の各連盟が承認)

試合は一回戦で大宮工に勝ちました(2-1)が、2回戦では優勝候補の水戸商業に当たってしまい、大敗(0-9)しました。水戸商は石井さん(早大・同監督・全日本監督・殿堂入り)が投打の大黒柱で、3年生だった私の15歳に対し、高等科(小学校6年修了後、さらに2年間就学)から入学した5年生の石井さんは、この年には19歳になろうとしていておっさんみたいでした。しかも当時としては飛び抜けた長身(181センチ)で、小さめの使用球は手の中に隠れてしまうほどで、天井から落ちてくるようなボールには手も足も出ませんでした。大会はこの水戸商が優勝しました。

◎この年を最後に中等野球は中断してしまいますね。高中野球部はどうになりましたか。

《大山》 たしか、東京から帰った後、野球部が残っている高崎、桐生、前橋の数校で護国神社への奉納大会(?)があって、これが中学校での野球の最後でした。その後18年4月に野球部は正式に解散しました。この年から農村への勤労奉仕、19年には市内の工場への勤労働員が終戦まで続きました。

◎戦争末期の卒業でしたが、そのあたりの事情を含めて戦後の事情についてお話し下さい。

《大山》 あの頃はみんな軍隊に行きたいと思ってました。私も予備海兵団を受験しましたが、蓄膿症を理由に不合格でしたので、桐生工専(桐生工業専門学校、現・群馬大学工学部)に入学しました。この蓄膿症については後日誤診といわれ、軍隊がいい加減なところだと思いましたね。

桐生工専在学中に終戦を迎え、また野球が始まり、工専で野球をしながら高中野球部の復活も手助けしました。卒業後入社した上信電鉄にも野球部があり、軟式でしたが全国大会で優勝を争うほどになりました。これには入社してもらった高中野球部の先輩福田さんと金森さんが大いに貢献してくれました。また部員の今野さんは、17年の全国大会に台湾代表(当時台湾は日本の植民地)の台北工業の選手として活躍した人で、戦後引き揚げてこれ倉賀野におりました。

このように、戦後には中学時代の野球部活動を不完全燃焼に終わった世代が、思い切り野球を楽しみました。平和のありがたさを心から味わいました。

(44期 元上信電鉄(株)常務)

\*幻の甲子園＝昭和16年、全国中等学校優勝野球大会は文部省の一片の通達で中止させられた。ところが翌年6月、これまでの主催者朝日新聞社を排除して、文部省及びその外郭団体・大日本学徒体育振興会の主催で開催することが通達された。朝日新聞社はこの大会を第28回大会とし、優勝旗も引き継ぐよう申し入れたが却下され、名称を「大日本学徒体育振興大会」管轄下の「第1回全国中等学校体育大会野球大会」として実施された。このため朝日新聞社はこの大会を認めず、通算回数に入れず、記録も認めていない。このためこの大会は、「幻の甲子園」といわれている。

なお、この優勝校徳島商業に授与された粗末な幟旗(智・勇・仁と書かれていた)と表彰状は、20年7月の空襲で焼失してしまい現存しない。



TAKACHU から高中へ

寄稿

## 清野先生の思い出

富岡 賢治

高崎市市長 64期



3年前の市長選運動中、ある会合で各テーブルを回っていたとき、品のいい女性にご挨拶をし、お名前をお聞きすると「『せい』と申します」と言う。「母校の高崎高校に『せい』という先生がいらっしゃいましたが、珍しいお名前ですね」と私が言うと、「私の父です」と。「エーッ。清野先生のお嬢さんですか。亡くなられたお父上にはお世話になりました」と言うと、「変わった父でしたでしょ」と言う。「とんでもありません」と申し上げた。

変わった人なんかでは断じてない。実力のある先生で、教え方は厳しかった。古文の文法を次々順番に生徒に答えさせ、答えられないとその場で立たされた。勉強していない生徒は、しょっちゅうなので面白くなかったであろう。

そういうことで清野先生に対し恨みを持った者がいたのだろうか。卒業式の後、清野先生を何人かの生徒がなぐつたと

いう噂を卒業後30年も経って聞いた。6年間のソビエト抑留生活を経験した筋金入りの先生のことだから、おそらく黙ってなぐられるままにいたのではないかな。真偽のほどは知らない。しかし、誰だか知らんが何もなぐらなくてもと思った。

古武士然として近寄りたかったが、実に優しいまなざしを持った先生であった。お嬢さんに「本当にいい先生でしたよ」と一言申し上げた。心からそう思うのだ。高高で手を抜かず一生懸命教えていたのに、卒業式になぐられたのでは清野先生もつらかったであろう。

学校には、名物の先生がいる。高高にも何十年経っても同窓会で話題になる名物の先生が何人もいた。清野先生は間違いなくその一人であった。私が「市長になりました。よろしくお願いします」と向こうの世界に挨拶にでも行ったら、どう答えられるだろうか。「フム」と言って、後は何も言わないだろうな。

寄稿

## 高高魂、忘れじ

堀口 英利

自衛官・中部方面総監 74期



高崎高等学校を卒業してはや38年、現在56歳となり、来年自衛隊の定年を迎える。この時期に高高の蛮カラバラの花咲く校庭、自由闊達だったあの頃を思い出しつつ、今までの半生を振り返る機会をいただき、ありがたくこの原稿に向っている。

思い起こせば、高校3年間、実に色んな事に悩み行動し、大きな希望を持ったり、落ち込んだりしたものだ。入学した頃は外科医に憧れたりしたもの、3年に進級する頃にはどうしたものかと悩み、そんな頃、「君も自衛隊の幹部を目指してみないか」と誘われた。妙に「幹部」という言葉に魅入られ、何か大きな仕事にかかわれるのではと漠然ながら希望を膨らませていた。

しかし、現実には結構厳しかった。防衛大学校に入学してみ

ると、明日の幹部を育てるという明確な目的をもって勉学、体力そしてジェントルマンとしての素養を24時間365日鍛えられ、更には時々自衛官として必須の訓練もこなす日々を過ごした。23歳となって第一線部隊に配属されると、約30名の部下に迎えられた。自分より若い者も多少居たが大半が年上、しかも父親程の先輩を含めて指揮・統率することとなり、内心ドキドキしながらも平然たる態度を装い皆の前に立った。しかし、部下達は何も経験のない自分をやさしく迎え入れ、指揮官としての私の立場を尊重しながら手取り足取り教えながら小隊長らしく育ててくれた。

気がつけば、今、約2万7000名を指揮する総監という立場となった。この間、私の心の支えとなった一つに高高の負けじ魂があったことは間違いのない。

寄稿

## フェイスブックでつながる 同窓生

山口 憲和

フィロソフィ保険サービス社長 84期



86期の一文字守君からフェイスブックでメッセージが入った。サンフランシスコでワールドベースボールクラシックの大会に日本が出場するので、見に行くらしい。ロサンゼルスに在住する私は車で行くと6時間程度、サンフランシスコも十分ドライブ圏内。二つ返事で、妻と二人でサンフランシスコへ行くことにした。

一文字君は高高の後輩だが、慶應の大学院(ビジネススクール)では彼が先輩という面白い関係で、最後に会ったのは、私が90年に入社した全日空を97年に辞めてビジネススクールに行く際に相談したのが最後ではなかったろうか? 実に16年ぶりの再会だった。

一文字君に限らず、最近ではフェイスブックでつながっている懐かしい同級生も増えている。2年6組で席を並べた山崎隆之君は高高時代から名サックスプレーヤーだったが、県庁で働く今でもボランティアであちこちで演奏している様子を拝

見させていただいている。写真を掲載して伝えてくれる群馬の風景が懐かしい。

当時の生徒会長だった神戸金史君はジャーナリストとして九州のRKB毎日放送で活躍中。番組作りの話や世相のことに関して熱く語ってくれる。まったく昔と変わっていない。

実はこの原稿の依頼も、フェイスブックでつながった粕川老師のお声かけだった。我々が来年度の幹事期とのことで、フェイスブックのコミュニティも活用してみんなをリードしてくれている。

私自身は2004年に渡米し、2009年には永住権を取得して独立。ロサンゼルスで保険と労務のサービス会社を営んでいる。お近くへお越しですか? 是非フェイスブックでメッセージを!

<https://www.facebook.com/norikazu.yamaguchi>

## 第112回 同窓会 郷土愛、 母校愛と“おもてなしの心”

小此木 正信

83期代表幹事 株式会社トーエー商会 代表取締役社長兼CEO



この度、第112回同窓会新年総会の担当期を務めさせていただきます83期代表幹事の小此木正信です。1984年3月に高高を卒業し、ちょうど30年後の節目の年に当たりますが、まだまだ昔を懐かしむような年齢でもなく、大学生の1986年12月には、日本のバブル経済がスタートし、社会人になって間もなくバブルが崩壊。1995年1月には、日本を震撼させる阪神・淡路大震災が起り、甚大な被害がありました。その後21世紀に入っても景気・経済の回復が足踏み状態の中で、2011年3月にあの東日本大震災が発生し、原発の問題にも発展しました。その後株価暴落へと。しかし、2012年には、政権交代もあり、景気・経済も徐々に上向きへとといったこの30年。そして、これからの未来2020年には、56年ぶりとなる東京オリンピック開催という喜ばしいこともあります。そんな高高卒業後、30年目にして、改めて同級生が一堂に会して、中心となって112回同窓会を進めさせていただけることはとても嬉しいことです。

郷土愛、母校愛、そして友情を再認識しながら、おもてなしの心を持って担当期を務めさせていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

私の仕事

# 私の仕事史

～欧米を駆け巡った 25 年～



清水 明

JPモルガン アセット マネージメント株式会社顧問 54期

仕事について書くように依頼されたが、私は54期なので今年77歳、将来は描けないので自分の最も忙しかった50歳までの仕事人生を振り返ってみる

早稲田を出て野村証券に入ったのが54年前の1959年(昭和34年)、御袋に就職が決まったと電話したら“大学を出て株屋になるのか”とがっかりされたがそれが証券会社の社会的な評価だった。4月1日に入社すると当時はすぐ命課、外国部勤務を命じられた。野村が外国業務をしているなんて知らなかったのがこれには驚いた。一年後くらいに人事部長に何故に私が外国部に配属されたか聞いたら、“お前が英語の試験で一番だったから”と言われた。1957～59年はいわゆる神武景気のあとの鍋底不況の就職難で、対策として大学4年になった時から朝日イブニングニュースをとり、全部は読めないのに社説だけは読むように心がけていた。野村の入社試験(面接以外に英、国、社会の筆記試験があった)には字引を引いて読んだことのある1週

間ほど前の社説がそのまま出ていたので、別に実力があつたわけではない。でもこれが私の仕事人生をほぼ決めるとは神のみぞ知る、であった。

外国部と言って総勢25人くらいであとNY事務所に3人の小所帯、東京での主な仕事は立川や厚木の米軍ベースの軍人や軍属と日本株の売買をすること。英語を話さないと商売にならないので、勤務の後日米英会話学院の夜学に通った。当時の野村のトップが海外進出に野心を持っていて、入社して2年後の1961年に社内留学制度を作り、毎年数人の社員を外国の大学院で学ばせることに決めた。幸い第1回生の一人に選ばれ、2年間ペンシルベニア大学のウオートンビジネススクールに留学した。当時のアメリカはケネディ政権下繁栄を謳歌しており、日米の生活水準のあまりの格差に驚かされた。しかし何より大変だったのが授業で、劣等生の悲哀を十分に味わった。

1963年に帰国すると国際投資銀行業務に配属され、日本企業がニューヨーク市場やユーロドル市場

で証券を発行する仕事を3年ほどやった。1966年再びアメリカへ、今度はNY支店勤務を命ぜられ3歳の長男を連れ家族で赴任した。米国の投信や年金の運用会社に日本への投資を勧める機関投資家営業をやった。当時の野村は金融のプロの間でもあまり知られていず、電話でアポをとるにしても“What is Nomura”と言われる始末。プロが相手だけに日本経済や企業の高度の分析を要求され、むしろ顧客からやり方を教わりながらレポートを作り外交した。当時のNY市場は高値圏で、それに比べ日本のソニーの様な成長株のPER(株価収益率)が魅力的になり、2年ほど苦しんだ後地道な外交の成果が出て来た。

その頃の野村の海外勤務のローテーションは3～4年でそろそろ帰国出来るかと思い始めた1969年、転勤を命ぜられたが行先はLondonだった。海外から海外への最初のケースになってしまった。ちょっと落ち込んでいた時に当時日本で話題の司馬遼太郎の坂の上の雲を入手、一気に読

了した。日本の勃興期の青年の志と情熱に感動し、また日露戦争の戦費調達のための日本の外債を快く引き受けてくれたCityで働くことに意欲が出てきた。ロンドンでは引き続き機関投資家外交をやったが欧州全域をカバーするため頻繁に出張し多忙を極めた。1970年末のある日、出張先のミラノに東京から電話があり、組織の若返りを決めたので71年からお前が支店長をやれと突然言われた。35歳の私が日本人の最年長なので、野村でも一番若い支店だったと思う。

若者集団だけにまとまりも良く意欲満々で船出したのだが好事魔多し、思いもよらない2つの大波(ショック)に翻弄された。最初は1971年8月のニクソン大統領のドル防衛策で、円は360円から308円に切り上がり、その後変動制に移行した。日本の株価は暴落したが、変動制までの2週間に円がもっと高くなると見込んだ欧州の投資家は、預金等の金融市場が閉鎖されたため唯一開いていた株式市場に殺到し、我々にとって新規顧客が次々と誕生した。機を見るに敏で決断の早い国際投資家の行動は私にとって良い勉強になった。次の大波は1973年10月、第4次中東戦争が起きたのを契機にOPEC加盟国が原油価格を一気に90%引き上げたオイルショックだった。すべての石油を輸入に頼っている日本にとって重大危機で、株価は30%下がり再び冬の時代に入った。日本の企業が合理化に必死の努力をして、ようやく経済が落ち着きを取り戻した1976年に東京に戻った。3歳でNYに行った長男は13歳になり、ロンドン生まれの次男も4歳にして初めて日本の土を踏んで10年に亘った海外生活も一旦ピリオドを打った。

東京では海外機関投資家のために日本経済や企業の分析レポートを英文で作る海外投資顧問室の室長となった。海外留学から帰ってきた若いアナリストが中心で、企業分析を学んで将来の支店駐在員を育成する目的もあった。その頃から資金の溜まった中東諸国からの国際投資が始まり、調査レポートを抱えてアナリストとサウジ、クエート、アブダビ等に外交する仕事が増えた。

3年ほどこの仕事をやっていたが1979年に欧州の全拠点を統括する欧州野村(Nomura Europe)が出来て、その社長とロンドン支店長を兼務するよう命じられた。いわゆるOil Moneyが大きく動き出して日本株にも向かってきたが、すべてスイスやロンドンの銀行を経由して出所が分からない。何とか直接商売したいという念願もあり、ロンドンへの赴任を中東経由にして、ドバイ、アブダビ、クエート、サウジの主要金融機関と政府資金の運用機関に外交した。2度目の欧州勤務は2年間、Oil Moneyの直接取り込みにも成功し、中東の投資家向けに株や転換社債を新たに発行する投資銀行業務も拡大した。今振り返っても最も忙しかった時期で、ロンドンの副支店長が心臓麻痺になり社内で倒れて亡くなるという悲劇も生じた。

1981年の正月に日本に戻り、海外支店全体の管理と営業推進を担当する海外営業本部の部長になったが、その年の11月に取締役に選出され同時に米国野村(NSI)の社長に命ぜられ年末にはNYに赴任した。この頃から原油価格が下落し始め、国際的な資本の流れがOPECから先進国に移ったと思われる。10年以上停滞していた米国株式市場がレーガノミッ

クスに反応して82年から力強く上昇し始めた。さらに対ドルで円が上昇、日本の投資家にとって米国株や債券が魅力ある投資対象となった。そこで米国人のトレーダー、アナリスト、エコノミスト等を思い切って大量採用し日本からの需要に備えた。その結果ビジネスの主流は日本証券ではなく米国証券の日本への輸出になった。また米国一流企業の東京証券取引所への上場やユーロ円市場での起債等強い円を活用しての新しい仕事が拡大した。1986年米国財務証券の大量取引の実績を認められて、政府証券のプライマリーデイラーの資格を得たのを土産に日本に帰国した。

絶えず変わり続けるのが国際金融の世界、次々と起こる出来事とにかく後れを取らないように懸命に行動し、与えられた課題にチャレンジし続けてきたら50歳になっていた。22歳からだから野村証券で28年働いたが、留学を含め外国に18年、日本での10年もすべて国際関連業務と奇妙な仕事人生になった。幸いこの期間日本経済は順調に成長し、会社も伸び海外ビジネスはもっと伸びた。入社当時30人弱だった海外部門が86年末には現地スタッフがほとんどだが2500人を超える人数になっていた。しんどかったが恵まれた仕事人生だったと思う。



オイルマネーによる起債の調印式

## 翠巒育英会からのお願い

翠巒育英会につきましては、昭和60年の設立以来お世話になってまいりましたが、財団法人に係わる法改正により平成24年4月より「公益財団法人翠巒育英会」として再発足いたしました。再発足したとはいえ活動内容は従前の活動とはほとんど変化はありませんが、育英資金の給付の対象がこれまでの県内高校生から高崎高校在校生に変わり、本育英会の運営が一層円滑に進むようになりました。

ご存じのとおり本育英会は、昭和56年の選抜野球大会出場資金の残金3000万円を基金として60年「財団法人翠巒育英会」として発足し、基金の運用による果実によって高校生の修学を援助して参りました。しかし、低金利時代になり運用果実では援助するのが困難になり、現在は

同窓生諸兄のご寄付により維持している状態です。

昨今の厳しい経済状況の中で修学困難な家庭が増え、その上東日本大震災の被災者の子弟も入学しており、奨学金を望む状況はさらに増加することが予想されます。同窓生諸兄におかれましては、厳しい家計の中で一所懸命勉学に励んでいる後輩を後押しするため、是非ともご浄財をお寄せ下さいますようお願いいたします。

本来ならば、直接お伺いしてお願いをしなくてはなりません、同窓会報の紙面をお借りしてお願いさせていただきました。なお、このご寄付は確定申告の際、寄付控除(2000円をこえる金額について)として所得から引かれるようになりました。ご寄

付いていただける場合は、事務局にお声をかけていただくか、会報に同封の振込用紙にてご送金していただければ幸いです。後刻領収書、税額控除証明書をお送りします。(事務手続きの関係で同封振込用紙の場合、本年に限り1000円指定)

理事長 田端 稜

### ■学校別奨学生数

| 学校名          | 人数 |
|--------------|----|
| 群馬県立高崎高等学校   | 92 |
| 群馬県立高崎女子高等学校 | 7  |
| 群馬県立高崎工業高等学校 | 3  |
| 群馬県立高崎商業高等学校 | 5  |
| 群馬県立中央高等学校   | 3  |
| 高崎市立高崎女子高等学校 | 4  |

## 翠巒育英会と私

横尾 英明

群馬大学大学院医学系研究科准教授 85 期



平成24年春の選抜高校野球大会で、本校は31年ぶり2度目の甲子園出場を果たしたことは記憶に新しい。初出場は81期生を中心とする世代で、私はその4年下の学年に当たる。私が中学1年生の冬頃に、甲子園初出場までの高高野球部の足跡を振り返る上毛新聞の連載を読み、甲子園での試合を心待ちにしていた頃の自分を、今回の田端稜先生からの原稿依頼をきっかけに久しぶりに思い出した。

それから2年後、私は高高の門をくぐり、そして野球部の門を叩いた。まだ甲子園出場の余韻が残る時期で、私の2年先輩にあたる83期生の世代も非常に強く、秋と春の県大会は準優勝(優勝は渡辺久信投手(今季まで埼玉西武ライオンズ監督)を擁した前橋工業)、春の関東大会でも堂々の準優勝を果たした。ただし私個人は、入部して間もなく腰の怪我を負って

しまい、満足にプレーできることなく1年後にやむなく退部した。

そんな短い野球部生活であったが、在籍中に「甲子園出場を祝う寄付金がまだ相当額残っているらしい」という噂は1年生部員の私の耳にも入っていた。それを原資として私が3年時(昭和60年)に設立されたのが財団法人翠巒育英会である。当時、この話題を取り上げたNHKの番組を見た覚えがある。野球部長だった田端先生が語った「1億円の1点」のエピソード、第1期生の奨学金授与式、番組の最後に応援団のエールを望遠で捉えた風景など、今もおぼろげながら思い出することができる。私は翠巒育英会の援助は受けなかったが、母校の同窓会が立ち上げたこの事業に対し、在校当時からとても誇りを感じていた。

話は少し前後するが、私は高2の頃から将来は研究者になりたいと思うように

なっていた。しかし研究者になるためには大学院まで進学する必要があり、我が家の家計ではかなり難しいと考えていた。そのことを2年次の担任であった川嶋尚武先生に相談したところ、奨学金という制度があるから心配するなと激励された。そして実際に大学と大学院で合計10年間、日本育英会の奨学金を受給(総額約650万円)した。当時、奨学生が研究職や教職に就くと就業年数に応じて返済が免除される制度があった。私は大学院修了と同時に大学教員に採用されたので、この制度の恩恵に浴することになった。しかし全額を踏み倒すというのも何だか気が引けたので、思案の末、手元に余っていた奨学金を翠巒育英会に寄付させていただきたいと、当時の古川功校長先生に手紙を書き、私のこの一方的な申し入れを叶えていただいた。平成8年春のことである。

このことが縁で、当時の同窓会役員で翠巒育英会担当だった田中順先生にはたいへん懇意にしていた。当時は全く気付かなかったが、田中先生は私のことを上毛新聞に投書したそうで、この投書がのちに単行本に収載された。上毛新聞1面の三山春秋というコラムにその本が紹介され、そこに田中先生の文章の一節が引用され、自分のことが書かれていることに気づいた時は、ただただ恐縮す

るしかなかった。

いつの時代も教育は天下国家の基本であり、若者は社会の希望であり宝である。預貯金の低金利が続く昨今、基金の利息がほとんど期待できない中で翠巒育英会の奨学金事業を続けることは難しいと聞くと、群馬県地域の旗手を自任する本校ならびに同窓会には、いつまでもこの事業を継続して欲しいと思う。そのためには多くの皆様のご発露が欠かせない。私

が所属する群馬大学医学部医学科には高高と高女卒業生の親睦会がある。ある年の会で募金を行い、それを翠巒育英会に寄付させていただいたことがある。同窓生の集まりやお祝いの席などで、我らの団結の証として集めた浄財を翠巒育英会に持ち寄り、母校や地域の若者を応援するというのはいかがだろうか。母校への熱い思いをこんな素晴らしい形で表現できる我々は実に恵まれていると思う。

## 第一期翠巒育英奨学生として

佐々木 哲朗(旧姓上原)

静岡大学電子工学研究所特任教授  
元定期戦実行委員長 87期



私は高高入学と同時に第一期奨学生として3年間翠巒育英奨学金を給付頂きました。お陰さまで高校卒業後大学へ進学するだけでなく、無事大学院博士課程まで修了することができました。改めて感謝申し上げます。学業を終えた後は研究を継続し、仙台に暮らしておりました。先の東日本大震災では被災地で過ごす中で、私にとっては人の繋がり・助け合いの心について考え直す貴重な機会となりました。

震災当時、私は家族を残して東京に単身赴任していました。東北地方の被害の大きさを報道で見るに居ても立ってもいられず、すぐにバイクで仙台に駆け戻ったところ、幸い家族は無事で自宅にも大きな被害は無かったのですが、周囲では揺れによる家屋の被害も数多く見られ、普段見慣れた街の景色は大きく変わった様子に強い衝撃を受けました。道路はデコボコでところどころ寸断され、電気・ガス・水道が止まり、通信も途絶え、燃料も入手できない状況の中で、多くの人が食糧や水の調達など自分の生活を保つのに精一杯でした。しかし、そのような中でも人々が助け合う姿を実際に目にしました。高齢者の方々に近所のみんが入れ替わりで声をかけて、足りないものはないかと確認す

る姿。今まで近所付き合いなどなかった一人暮らしの学生が近所の方に食べ物を買ってもらったりした姿など数多くありました。特に公共インフラ関連の仕事をされている方や、生活必需品を扱うお店の方々は、自らも被災者であるにも関わらず自分のできる仕事を優先させ、店にあるものは放出し、困っている人には声をかけ、寝る間も惜しんで働いていました。それは決して利益のためではなく、助け合いと奉仕の精神のみで動いているのでした。購入する方々も、寒空の下で気の遠くなるほどの長蛇の列を整然と並び、買い占めなどは決してせず、必要なものだけを購入し、暗黙のうちに分け合う姿勢とルールが形成されていました。極限状態の中でのこのような様子に私は感動するとともに、日本人の美德、本物の国力はこのようなところにあることを深く感じました。

私はガソリンが入手できるまでの約2週間を被災地で過ごしたのち、ようやく東京に戻りましたが、その帰路は海沿いの国道で遺体安置所を案内する看板を数多く見ながら、たくさんのことを整理して考える時間になりました。今、自分は何ができるのか、何をすべきなのか。自分も震災前の平穏な時期に、多くの方々に支えられてきたのではないかと。このようなことを次々自

問していたところ、まず、高高時代に直接にお世話になった翠巒育英会を忘れられないと思いました。もちろんいつか恩返しをしたいとは考えてはいましたが、今こそと考え、この機会に寄付させて頂きました。とても十分とは言えませんが、遅くなってしまったと感じていますが、自分の娘がちょうど高校生となるタイミングでこの機会がやってきたことには巡り合わせを感じます。今後とも微力ながらお手伝いさせて頂きたいと考えております。

翠巒育英会にコンタクトをとる道をご教示くださいました茂木道弘先生、この原稿を書く機会を与えてくださいました田端稜先生、そして翠巒育英会を設立し、奨学金制度を立ち上げ、長年にわたり継続されている全ての関係者の皆様、同窓生の皆様に深く感謝申し上げます。

翠巒育英会発足のきっかけになった母校の甲子園出場が、2012年3月に再び果たされたことはOBとして至上の喜びでした。みぞれ降る中でノーゲームになった初日のアルプススタンドの過酷な寒さも、まさに声が枯れるまで応援した翌日の再試合も忘れられない思い出です。近い将来また甲子園に応援に行けることを強く願っています。

# 第61回 翠巒祭開催

テーマ: **Grow Reuse** 《Grow Reuse》



◀パンフレットデザイン

多くの来場者で賑わった▶



第61回翠巒祭は「GrowReuse」というテーマのもと、今年も多くの来場者を迎え、成功を収めることができました。

昨年60回という節目の年を迎え、そして新たな気持ちで迎えた61回ですが、これまで積み上げてきた翠巒祭の歴史を見直しさらに良いものにしていこうと努めてきました。

今年は、新たに一から作り直すことになったパンフレットや試作的に行われた古本市、また、新しくできた野球部の室内練習場によって狭くなった模擬店街の対応など、さまざまなことがありましたが、実行委員の努力と生徒全員の協力あって今年も無事にことを終えることができました。ですが、今年の翠巒祭であらわになった課題もいくつかあります。例年よりも最後の反省会議を念入りに行った結果、浮き彫りになった問題点が多く存在します。そのような問題点を後輩たちに改善してもらい、全国に名を馳せるようなより素晴らしい翠巒祭を作り上げてもらいたいものです。良い伝統を受け継ぎ、さらに栄えていく、そんなGrowReuseの精神がこれからの翠巒祭を進化させていくことを次期・実行委員に期待します。

最後になりましたが、第61回翠巒祭を開催するにあたり、ご尽力を尽くしていただきましたすべての方へ、心から感謝を申し上げますとともに、高高生へより一層のご支援を賜りますようお願い申しあげ、ご報告とさせていただきます。本当にありがとうございました。

第61回翠巒祭実行委員長 3年 西山 哲平



## 第65回 マラソン大会

平成25年11月12日(火)

前橋高校との定期戦が終わると例年体育の授業はマラソン大会に向けた走り込みとなる。今年で65回という歴史あるマラソン大会が、学校周辺の方々のご理解とご協力で下記のコースで行われた。

気温は10度と低かったが澄み切った青空の下、最高のマラソン日和となった。9.1kmのコースの前半は上り坂で白衣観音を過ぎると急激な下り坂になる。優勝者のタイムは33分43秒。全員が完走した。午後の表彰式ではクラス表彰、個人表彰に加えて、各教科や生徒会からの特別賞の発表で盛り上がった。



護国神社前のスタートダッシュ



テニスコート前でのラストスパート



### コース

**START** 護国神社前【10時】→

国立のぞみの園→白衣観音→洞窟観音入口→  
高崎高校トラック内 **GOAL**



「定期戦」とは、一体何なのだろうか。言ってしまうと、単なる高生と前高生のケンカに過ぎない。しかし、実行委員長を務めさせていただいて、それとは違って、むしろ、それ以上のものを経験することができました。自分一人では何もできないが、周りにはチーフがいて、実行委員がいて、そして高生がいてくれました。自分一人ではちっぽけな存在です。でも、みんながいてくれるから頑張れるのではないかと思います。そういった小さなことの積み重ねの結果が67回も続いている「定期戦」ではないのかなと思いました。実行委員長を務めさせていただいて、改めて、上に立つ者の大切さを学ぶことができました。こういう体験ができるからこそ、社会の中で高生が活躍しているのではないのでしょうか。そんな体験をできた自分はとても幸せです。

最後に、高崎高校の実行委員長としてみんなと共に戦えたことを誇りに思います。本当にありがとうございました。

第67回定期戦実行委員長 3年 中山 隼

## 第67回定期戦得点表

| 部対抗  |    | 種 目      | 一般対抗 |       |
|------|----|----------|------|-------|
| 高高   | 前高 |          | 高高   | 前高    |
|      |    | 水 泳      | 1.5  | 7.5   |
|      |    | 駅 伝      | 0    | 9     |
|      |    | 綱引き      | 6    | 3     |
|      |    | 玉入れ      | 3    | 6     |
|      |    | ソフトボール   | 3    | 6     |
|      |    | 長縄跳び     | 2    | 4     |
| 0    | 6  | 卓 球      | 4    | 5     |
| 6    | 0  | 陸上競技     | 0    | 9     |
| 6    | 0  | ソフトテニス   | 3    | 6     |
| 6    | 0  | バレーボール   | 6    | 2     |
| 6    | 0  | バスケットボール | 7    | 3     |
| 0    | 6  | 空手道      |      |       |
| 6    | 0  | 柔 道      |      |       |
| 0    | 6  | 剣 道      |      |       |
| 0    | 6  | 弓 道      |      |       |
| 3    | 3  | サッカー     |      |       |
| 6    | 0  | ラグビー     |      |       |
| 0    | 6  | 硬式野球     |      |       |
| 0    | 6  | 軟式野球     |      |       |
| 0    | 6  | テニス      |      |       |
| 39   | 45 | 小 計      | 35.5 | 60.5  |
| 74.5 | 高高 | 総 合      | 前高   | 105.5 |

## 進路状況(全日制) ( )内は現役

| 大学    | 年次 | 23年    | 24年    | 25年    | 大学        | 年次 | 23年    | 24年    | 25年    | 大学        | 年次 | 23年     | 24年    | 25年    |
|-------|----|--------|--------|--------|-----------|----|--------|--------|--------|-----------|----|---------|--------|--------|
| 北海道大  |    | 6(5)   | 8(8)   | 7(5)   | 金 沢 大     |    | 4(4)   | 15(14) | 13(10) | 明 治 大     |    | 101(74) | 86(56) | 66(52) |
| 東 北 大 |    | 28(25) | 20(18) | 25(19) | 信 州 大     |    | 1(0)   | 7(6)   | 5(4)   | 上 智 大     |    | 4(4)    | 7(5)   | 13(12) |
| 筑 波 大 |    | 11(10) | 9(9)   | 6(5)   | 名 古 屋 大   |    | 2(2)   | 1(1)   | 1(1)   | 立 教 大     |    | 22(15)  | 28(22) | 20(13) |
| 千 葉 大 |    | 4(3)   | 4(1)   | 13(12) | 京 都 大     |    | 8(6)   | 5(5)   | 4(3)   | 学 習 院 大   |    | 7(3)    | 0(0)   | 9(7)   |
| 群 馬 大 |    | 23(9)  | 29(24) | 28(24) | 大 阪 大     |    | 0(0)   | 2(1)   | 4(4)   | 青 山 学 院 大 |    | 11(5)   | 16(9)  | 16(13) |
| ( 医 ) |    | 7(5)   | 8(5)   | 8(7)   | 首 都 大 東 京 |    | 8(5)   | 4(2)   | 1(1)   | 法 政 大     |    | 37(25)  | 37(27) | 32(27) |
| 埼 玉 大 |    | 11(10) | 6(3)   | 9(7)   | 高 経 大     |    | 22(19) | 16(15) | 14(14) | 日 本 大     |    | 56(41)  | 66(59) | 45(36) |
| 東 京 大 |    | 7(5)   | 3(1)   | 5(5)   | 慶 應 大     |    | 39(24) | 29(21) | 30(25) | 東 京 理 科 大 |    | 92(65)  | 75(57) | 70(55) |
| 一 橋 大 |    | 4(4)   | 4(3)   | 3(3)   | 早 稲 田 大   |    | 77(52) | 55(37) | 36(30) | 芝 浦 工 業 大 |    | 63(54)  | 74(57) | 52(42) |
| 東 工 大 |    | 6(4)   | 4(4)   | 6(3)   | 中 央 大     |    | 72(48) | 67(48) | 58(53) | 同 志 社 大   |    | 12(9)   | 8(5)   | 2(2)   |
| 横 国 大 |    | 5(3)   | 5(4)   | 3(3)   |           |    |        |        |        | 立 命 館 大   |    | 15(12)  | 32(27) | 16(11) |
| 新 潟 大 |    | 16(15) | 13(13) | 13(11) |           |    |        |        |        |           |    |         |        |        |

# 母校だより 各部の活躍・活動

## 運動部の活動

### バレーボール部 3年 福島 健人 北部九州総体出場

今年度、悲願のインターハイ予選での優勝を果たし、北部九州総体へ出場することができました。これもひとえに熱心に指導して下さった柴山先生・加邊先生・OB・OGの方々のおかげであり、感謝しています。

当初の目標は全国大会での1勝を揚げており、その目標は達成できませんでしたが、全国大会での経験は大変貴重なものとなりました。後輩にはこれを機に全国大会常連校となってくれることを期待しています。

これからも高崎高校バレーボール部の応援を宜しくお願いします。



### 陸上部 3年 宮入 紳豪 北部九州総体・東京国体出場

日頃から、陸上部への温かな激励ありがとうございます。

私は、大分インターハイ、東京国体において、夢の全国入賞を果たすことができました。高崎高校の名を背負って、このような結果を残せたことを誇りに思います。この結果に満足することなく更に上を目指して、これからの練習に励んでいこうと思います。

そして、今回に限らず、今まで支えて下さった、恩師である田島先生をはじめ、家族や仲間、その他多くの方々に深く感謝申し上げます。



- ①関東大会
- ②インターハイ予選
- ③全国高校総体
- ④国体
- ⑤県新人大会
- ⑥その他の大会

### 硬式野球部

#### ○春季大会

- 2回戦 高崎11-1 高崎東
- 3回戦 高崎2-0 西邑楽
- 4回戦 高崎3-6 沼田

#### ○選手権大会

- 2回戦 高崎8-4 大泉
- 3回戦 高崎4-6 伊勢崎興陽

#### ○秋季西毛リーグ

- 高崎3-6 農大二
- 高崎18-2 安中総合
- 高崎5-4 中央中等
- 高崎0-3 高崎商
- 高崎7-6 高崎工

#### ○秋季大会

- 2回戦 高崎2-3 健大高崎(延長13回)

### ラグビー部

#### ①Eブロック(A~Gブロック別)

- 高崎12-7 千葉北(千葉県3位)
- 高崎15-17 明大中野(東京4位)
- (準優勝)

#### 全国高校総合体育大会群馬県予選

- 高崎34-0 太田
- 高崎26-26 農二
- 高崎5-46 明和県央(準優勝)

### サッカー部

#### ②4回戦 高崎2-1 前橋東

- 準々決勝 高崎0-0 前商
- PK 5-4

#### 準決勝 高崎1-4 桐生一

(ベスト4 第3位)

#### 全国高等学校サッカー選手権大会

#### 群馬県大会 決勝トーナメント

#### 1回戦 高崎1-0 高経附

- 準々決勝 高崎1-1 前商

PK 5-6 (ベスト8)

### バレーボール部

#### ①1回戦 高崎2-0 正智深谷(埼玉)

#### 2回戦 高崎2-1 聖徳学園(東京)

#### 3回戦 高崎2-1 早稲田実業(東京)

- 準々決勝 高崎1-2 深谷(埼玉)

(第5位)

- ②3回戦 高崎2-0 館林  
準々決勝 高崎2-1 高工  
準決勝 高崎2-0 伊勢崎  
決 勝 高崎2-1 桐商 (優勝)
- ③予選グループ戦  
高崎1-2 市尼崎 (兵庫)  
高崎0-2 一関修紅 (岩手)
- ④本校より監督・選手9名出場  
関東ブロック大会 (神奈川)  
群馬2-1 埼玉  
群馬0-2 千葉  
群馬2-0 栃木  
(関東ブロック突破)  
本大会 (東京)  
1回戦 群馬0-2 宮崎
- ⑥西毛地区大会  
準々決勝 高崎2-0 高東  
準決勝 高崎2-0 高北  
決 勝 高崎2-0 高工 (優勝)  
全日本バレーボール高等学校選手権大会  
(春の高校バレー) 群馬県予選会  
3回戦 高崎2-0 育英  
準々決勝 高崎2-0 前商  
準決勝 高崎2-1 高工  
決 勝 高崎0-3 桐商 (準優勝)

## 陸上競技部

- ①②関東高校陸上競技大会(熊谷)  
兼インハイ予選  
栗原 勇貴(3年)800m 決 3位  
田代 健人(3年)110mH 決 8位  
小坂橋遼太(3年)三段跳 決 1位  
宮入 紳豪(3年)円盤投 決 1位  
田代 健人(3年)八種競技 決 2位  
・男子総合成績 30点 第4位
- ③栗原 勇貴(3年)800m 予組 4位  
小坂橋遼太(3年)三段跳 予組 17位  
宮入 紳豪(3年)円盤投 決 8位  
※全国入賞  
田代 健人(3年)八種競技 決 20位
- ④宮入 紳豪(3年)円盤投 決 6位  
※全国入賞
- ⑤多胡 遼(2年)100m 決 6位  
多胡 遼(2年)200m 決 7位  
淡路 将史 400m 決 7位  
永井 諒 1500m 決 8位  
茂原 大悟 5000m 決 5位  
茂原 大悟 3000mSC 決 3位  
黒岩 勇作 決 5位  
4×100mR  
岡島 大樹(1年)1走 決 6位  
多胡 遼(2年)2走 決  
長野 哲也(2年)3走 決  
真下 稜平(2年)4走 決  
高橋 昇之 棒高跳 決 5位  
瀧川 実哉 やり投 決 3位

- ⑥関東選抜新人陸上大会(相模原)  
茂原 大悟 3000mSC 予組 8位  
高橋 昇之 棒高跳 決 14位  
瀧川 実哉 やり投 決 21位
- ⑥県高等学校対抗陸上競技大会(前橋)  
・男子総合成績(一部校12校中)116点 第2位
- ⑥高校駅伝 第4位 2時間12分58秒  
奈良 航佑  
永井 諒  
茂原 大悟  
栗原 勇貴  
清水 諒  
黒岩 勇作  
山森 魁人

## 水泳部

- ①後藤大輝(3年)200m個人メドレー21位  
以上の記録で、後藤大輝が200m個人メドレーにおいて全国標準記録を上回り、全国大会に出場
- ③200m個人メドレー 後藤大輝 55位  
④400m個人メドレー 後藤大輝 15位  
⑤100m自由形 宮崎勝正 4位  
50mバタフライ 宮崎勝正 3位  
100m平泳ぎ 宮田賢優 1位  
200m個人メドレー 宮田賢優 6位  
50m背泳ぎ 池田雄一 5位  
200mリレー (宮田・池田・土橋・宮崎) 3位  
200mメドレーリレー (池田・宮田・宮崎・土橋) 3位
- ⑥関東高校県予選 競泳男子総合 第5位  
200m個人メドレー 後藤大輝 4位  
400m個人メドレー 後藤大輝 2位  
400m自由形 増田泰誠 5位  
1500m自由形 増田泰誠 3位  
100m平泳ぎ 齋藤 匠 3位  
200m平泳ぎ 齋藤 匠 3位  
400mリレー (齋藤・宮崎・宮田・後藤) 8位  
800mリレー (後藤・齋藤・宮田・増田) 5位  
400mメドレーリレー (後藤・齋藤・増田・宮田) 7位  
以上の種目で入賞し、関東高校標準記録を突破しましたので関東大会に出場
- ⑥県高校総体 男子総合 第4位 (62点)  
200m個人メドレー 後藤大輝 2位  
400m個人メドレー 後藤大輝 2位  
400m個人メドレー 増田泰誠 4位  
200m自由形 増田泰誠 6位  
100m平泳ぎ 齋藤 匠 3位  
200m平泳ぎ 齋藤 匠 3位  
400mリレー (齋藤・増田・宮崎・後藤) 3位  
800mリレー (齋藤・増田・宮崎・後藤) 4位  
400mメドレーリレー (後藤・齋藤・増田・宮崎) 5位

## ソフトテニス部

- ①個人 森田(敢)、小坂橋(奎)組 (ベスト32)
- ②団体 2回戦 高崎3-0 育英  
3回戦 高崎2-0 館林  
4回戦 高崎0-2 健大 (ベスト8)  
個人 串田・森田(修)組(ベスト16)
- ⑤団体 2回戦 高崎3-0 市立前橋  
3回戦 高崎2-0 前橋  
4回戦 高崎0-2 農二 (ベスト8)  
個人 清水・津久井組(3位)
- ⑥1年生大会 須田・森田(学)組(2位)  
県高体連シングルス大会  
清水(ベスト8)  
串田(ベスト16)

## 卓球部

- ②1回戦敗退 高崎1-3 富岡
- ⑥国体予選  
個人シングルス ベスト64  
南 史弥(2年)  
個人ダブルス ベスト32  
松本和也(1年)・澤崎英太(1年)

## 剣道部

- ②3回戦進出  
高崎1-3 育英
- ⑤準々決勝  
高崎1-2 前橋(ベスト8)

## 柔道部

- ①団体戦出場
- ②団体戦 1回戦 高崎5-0 桐生  
2回戦 高崎5-0 利商  
準々決勝 高崎0-5 桐一 (ベスト8)
- ⑥群馬県柔道ジュニア選手権大会  
櫻井捷夫 55kg級 3位  
関東柔道ジュニア選手権大会  
櫻井捷夫 55kg級 出場  
群馬県強化選手選考会  
櫻井捷夫 60kg級 4位  
柴田佳宜 66kg級 優勝  
黒崎智史 66kg級 2位  
関谷太志 66kg級 4位  
神谷 航 73kg級 5位  
原 裕昭 90kg級 4位

## 《相撲競技》

- ①個人戦 11名出場  
団体戦出場(ベスト16)

## 弓道部

②⑤⑥予選敗退

## 空手道部

⑥群馬県高等学校空手道1・2年生大会  
個人組手 1・2回戦敗退

## 軟式野球部

②全国選手権予選  
1回戦 高崎4-7桐生  
⑤1回戦 高崎0-3前橋  
⑥強化リーグ戦(10月19日)  
高崎0-2桐生  
高崎3-2高工

## テニス部

②シングルス 根岸 寛(ベスト32)  
②ダブルス 根岸・古島(ベスト16)  
⑤ダブルス 古島・大西景(ベスト16)  
シングルス 古島 聖(ベスト32)  
団体(ベスト16)

## バドミントン部

②学校対抗戦  
1回戦 高崎3-0板倉  
2回戦 高崎3-0榛名  
3回戦 高崎2-3中央中等  
(ベスト16)  
⑥高校生バドミントン大会  
シングルス 野村(ベスト32)

## スキー・スケート部

①関東高等学校スキー大会  
増村 賢人 GS 3位  
山田 駿 SL 3位、GS 6位  
同県予選  
増村 賢人 SL 5位  
山田 駿 SL 2位、GS 3位  
②高校総体スキー競技兼全国高等学校  
スキー大会県予選  
増村 賢人 SL 4位、GS 6位  
山田 駿 SL 2位、GS 7位  
③全国高等学校スキー大会(インターハイ)  
増村 賢人 SL 出場  
山田 駿 SL 13位  
④国体冬季大会スキー競技会  
増村 賢人 GS 37位  
12月/第69回国民体育大会 関東ブロック大会  
アイスホッケー競技出場 勝家陽介

## バスケットボール部

②インターハイ予選  
2回戦 高崎120-12白根  
3回戦 高崎 80-49高東  
4回戦 高崎 82-65前西  
準々決勝 高崎 66-91高商  
(ベスト8)  
⑥全国高等学校バスケットボール  
選抜優勝大会県予選会  
2回戦 高崎118- 61前南  
3回戦 高崎144- 71尾瀬  
4回戦 高崎118- 94勢多農  
準々決勝 高崎 84-121桐一  
(ベスト8)

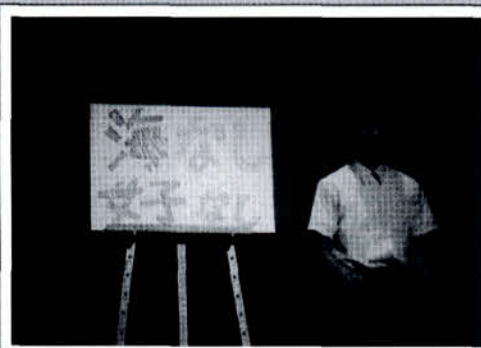
⑥西毛地区高等学校新人バスケットボール大会  
2回戦 高崎 99-31安中総合  
3回戦 高崎114-60高北  
準決勝 高崎 98-48新島  
決 勝 高崎 86-87高商  
(準優勝)

## 山岳部

①第57回関東高等学校登山大会  
(神奈川県)出場  
⑤第44回新人登山大会  
持田宏夢(2年)優勝

## 学芸部の活動

### 放送メディア部 2年 青木 慈明 NHK杯 高校放送コンテスト全国大会



私達放送メディア研究部は、映画制作が  
主な活動です。先日の県高校放送コンク  
ールでは、下仁田戦争を題材にした作品が評  
価され、関東大会に進むことが決まりまし  
た。他校では女子が行うことの多いナレー  
ションも男子だけで行わなければならない、作  
品の雰囲気は大味になりがちですが、知恵  
と工夫で完成度を高めています。

先輩方から常々いわれた「高高らしい斬  
新さ」を忘れないよう、これからも驚きのスト  
リーや、印象的な撮影効果を用いた作品を  
制作していきますのでご期待ください。

## 物理部

○物理チャレンジ2013  
第1チャレンジ通過 第2チャレンジ参加  
2年 金井凌

## 文芸部

○平成25年度全国高等学校総合文化祭  
(長崎大会)出場  
散文部門 曾山佳寛(3年)  
○平成25年度関東地区高校生文芸大会  
(神奈川大会)  
部誌部門 畠中友綺(2年) 神澤優(2年)

## 美術部

○第37回群馬県高校芸術祭美術工芸部門展  
3名 計4点出展

## 吹奏楽部

○11月/西部地区アンサンブルコンテスト  
打楽器三重奏 金賞

サクソフォン三重奏 銀賞  
金管五重奏 銅賞

○12月/県アンサンブルコンテスト  
打楽器三重奏 銅賞  
○3月/第54回定期演奏会  
○5月/西部地区ソロコンテスト  
千木良 宗倫(アルト・サクソフォン)・  
内山 涼太(マリンバ) 金賞  
○6月/県ソロコンテスト  
内山 涼太(マリンバ) 金賞  
千木良 宗倫(アルト・サクソフォン) 銀賞  
○8月/県吹奏楽コンクール  
高校A組 銅賞

## マンドリン部

○7月/第46回定期演奏会  
(於群馬音楽センター)  
第2回全国マンドリン合奏コンクール  
銅賞(於昭和女子大人見記念講堂)  
○9月/第9回群馬学生ギター・マンドリン  
フェスティバル出場(於:高崎市文化会館)

## 合唱部

《24年度》

- 1月/第6回群馬県声楽アンサンブルコンテスト  
奨励賞

《25年度》

- 5月/高崎高校合唱部定期演奏会
- 7月/平成25年度群馬県高等学校芸術祭  
音楽部門団体演奏会出演
- 8月/第80回NHK全国学校音楽コンクール  
群馬県コンクール銅賞
- 8月/第37回全国高等学校総合文化祭  
合唱部門(群馬県合同合唱団として参加)
- 11月/第19回群馬県高等学校総合文化祭  
総合開会式アトラクションに参加
- 11月/第19回群馬県高等学校総合文化祭  
合唱・器楽管弦楽2専門部合同演奏会  
(群馬県男子高校生合唱団として参加)
- 12月/第16回クリスマスコンサート
- 1月/第7回群馬県声楽アンサンブル  
コンテスト

## 和太鼓部

- 4月/第25回たかさきスプリングフェス  
ティバル 市民芸能ステージ
- 7月/第7回群馬県高校生郷土芸能発表会
- 7月/八千代町二丁目町内会納涼祭
- 8月/第39回高崎まつり  
伝統文化和太鼓部門
- 8月/第4回関東地区高等学校  
和太鼓選手権 銀賞受賞
- 8月/高崎市立城南小学校地区納涼祭
- 10月/リレー・フォー・ライフ・ジャパン  
2013ぐんま(公財)日本対がん協会
- 10月/第45回大運動会&フェスタ  
(都学園・友貴園)
- 11月予定/第27回高崎市農業まつり
- 11月予定/第19回群馬県高等学校  
総合文化祭 郷土芸能専門部大会
- 12月予定/高崎市観光課主催行事
- 1月予定/介護施設訪問  
(ケアパートナー高崎)
- 3月予定/第7回定期演奏会

※なお、本年度当初から予定されていた以下のイベントは、天候不良や日程重複のため、出演中止となりました。第6回たかさき春まつり、第37回花と緑の見学会(独)日本原子力研究開発機構、よいい祇園まつり、第27回高崎ふれあいの広場(高崎市社会福祉協議会)

## 演劇部

- 5月/第15回安中西毛地区演劇祭  
高演劇&ぐんまのしゃちょう作  
『星に願いを!花水木高校天文部』  
(安中市文化センター)
- 9月/平成25年度群馬県高等学校芸術祭

演劇部門 西毛地区大会  
ぐんまのしゃちょう作『Change Boys』  
(みかほみらい館小ホール)

## JRC部

- 5月/高崎地区高校生協議会総会参加
- 7月/県高校生リーダーシップTC参加
- 10月/観音山清掃参加、高崎地区TC参加、ふれあい・ゆうあい交流フェスタボランティア
- 11月/県総合文化祭交流会参加
- 募金活動への協力

## 囲碁部

- 4月/第37回全国高校囲碁選手権大会  
群馬県大会 団体戦  
優勝(北爪裕幸、笹口昂紀、平間友樹)
  - 5月/第37回全国高校囲碁選手権大会  
群馬県大会 個人戦  
優勝(北爪裕幸) 第4位(笹口昂紀)
  - 7月/第2回群馬県高文連囲碁専門部  
講習会  
指導者:村上晶英二段 参加生徒26名
  - 7月/群馬県高等学校文化連盟囲碁  
専門部合同練習会
  - 7月/第37回文部科学大臣杯全国高校  
囲碁選手権大会 団体戦予選リーグ敗退  
(北爪裕幸、笹口昂紀、平間友樹)、  
個人戦予選リーグ敗退(北爪裕幸)
  - 8月/第37回全国高等学校総合文化祭  
団体戦(笹口昂紀)
  - 11月/第29回関東地区高等学校  
囲碁選手権大会群馬県予選会  
個人戦優勝(笹口昂紀)
  - 12月/群馬県高等学校文化連盟  
囲碁専門部合同練習会
  - 1月/群馬県高等学校文化連盟  
囲碁専門部合同練習会
  - 1月/第29回関東地区高等学校  
囲碁選手権大会出場 個人戦(笹口昂紀)
- ※11月以降は予定です。

## 将棋部

- 5月/第40回群馬県高等学校将棋選手権  
大会 団体戦 準優勝(3年 堤直人、  
3年 横尾悠人、3年 平間友樹)
- 6月/第1回将棋棋力認定大会  
2年 7名、1年 3名参加
- 6月/第26回全国高等学校将棋竜王戦  
群馬県大会 2年 7名 出場
- 9月/第24回関東地区高等学校文化連盟  
将棋大会群馬県予選 2年 6名、1年 3名出場
- 11月/第19回群馬県高等学校将棋新人大会  
2年 7名、1年 3名出場

- 2月/第2回将棋棋力認定大会
- \*11月以降は予定

## 鉄道研究部

- 4月/八木橋鉄道フェア(埼玉県熊谷市)参加
- 4月/JR八高線写真展示列車参加
- 8月/鉄道模型コンテスト2013特別賞
- 11月/上信電鉄鉄道感謝フェア2013参加
- 11月/第19回群馬県高等学校総合文化祭  
参加

## 新聞部

- 第17回全国高校新聞年間紙面審査賞  
優良賞
- 第27回群馬県高校新聞コンクール知事賞
- 群馬県高校総合文化祭特報新聞「上州若人」  
取材・編集
- 「高崎高校新聞」・「高崎高校新聞  
翠巒MiniPress」発行
- 定期戦速報「前高合同新聞」発行  
(県立前橋高校新聞委員会と合同製作)

## 放送メディア部

- NHK杯全国高校放送コンテスト県大会  
テレビドラマ部門 最優秀賞
- NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会  
テレビドラマ部門 文化連盟賞
- 県高校放送コンクール
- オーディオ・ビクター部門優良賞

## 写真部

- 4月/春の合同撮影会参加
- 8月/第37回全国高等学校総合文化祭  
(長崎大会)写真部門出品
- 11月/第30回群馬県高校写真展出品  
3年 登坂直紀  
『琥珀鳥』最優秀賞  
『闘志』優秀賞  
(以上、関東大会への出品が決定)  
『死守』入選  
3年 白石智大『ちょっと一息』  
(関東大会への出品が決定)  
1年 西峯隆悟『空へ』

## 弁論部

- 11月/第12回群馬県高等学校弁論大会  
2年 田島陸 優勝

## 地学部

- 第61回県理科研究発表会 発表2題  
「2013ペルセウス座流星群観測結果報告」  
「高崎高校の地下を掘る」



## ■平成25年度教職員異動に伴う役員人事及び同窓会役員人事

|             |                |             |             |
|-------------|----------------|-------------|-------------|
| 副 会 長 (旧)   | 高橋 俊雄 (副 校 長)  | 転出          | 新田暁高 校長へ    |
|             | 市川 敏美 (全日制教頭)  | 校内異動        | 高崎高 副校長へ    |
|             | 加藤富士人 (通信制教頭)  | 転出          | 太田高 教頭へ     |
| 副 会 長 (新)   | 市川 敏美 (全日制副校長) | 校内異動        | 高崎高 教頭より    |
|             | 森泉 孝行 (全日制教頭)  | 転入          | 桐生女より       |
|             | 飯塚 聡 (通信制教頭)   | 転入          | 県教委文化財保護課より |
| 東京同窓会会長 (旧) |                | 高木 賢 (61期)  |             |
| (新)         |                | 山本 忠順 (62期) |             |

## ■維持会費納入を何故お願いするのか

甲子園出場となると1億円を優に超える資金が集まり、甲子園のスタンドは同窓生であふれました。高々同窓生の強い母校愛を感じます。現在、住所の判明されている同窓生は22,000名余りです。この全員の皆様に同窓会報と共に維持会費納入用紙を送付しておりますが、何と納入率は例年10%前後、2,000名ほどに過ぎません。2,000名の方々のご厚志を基に同窓会報の発行・送付に費用の50%を費やしております。貴重な所蔵本を朽ちらさないためにデジタル収録を開始しております。これらを同窓会ホームページにて同窓生に見ていただくサービスの提供も検討しております。また母校を見ますと、県の予算が少なく補修費もままなりません。少しでも同窓会からの支援で現役生徒・先生方が頑張れる環境にしてあげられたらと同窓会本部では考えております。これらの活動には維持会費の資金がどうしても必要となっております。

今回維持会費の納入方法を大きく変えます。ご氏名・ご住所も記載済みにてコンビニ・郵便局にて支払えるように致しました。24時間営業のお近くのコンビニにて是非納入ください。住所及び金額増額等の変更がある場合は郵便局にお出かけください。

どうぞ同窓会発展・母校支援のために温かいご協力を宜しくお願い申し上げます。

(同窓会本部幹事長 63期 立見友孝)

## 第111回高中高高同窓会新年総会のご案内

同窓生の皆さまにおかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、同窓会新年総会を私ども83期が担当させていただくことになりました。日頃から、諸先輩方におかれましてはご指導、ご助言をいただきありがとうございます。当日は、ご出席いただく皆さまが有意義にお過ごしいただけますよう83期一同おもてなしの心を持って対応させていただきます。

先輩後輩の方々のより多くのご出席を心よりお待ち申し上げます。

日時：平成26年1月25日 (土) 午後3時より

会場：高崎ビューホテル 住所／高崎市柳川町 70 TEL / 027-322-1360

会費：お一人様 5,000円 (当番期83期代表 小此木 正信)

## 本部より

### 校歌等CD制作完成・販売

#### ○購入方法

①直接購入【同窓会事務局】高崎市八千代町2-4-1 TEL027-320-6024

【同窓会新年総会・東京同窓会総会・藤岡翠樹会総会】

②現金書留による購入・郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記の上、お申し込み下さい。

③振込み送金による購入・郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記の上、下記口座にお振り込み下さい。

【口座名】 群馬県立高崎高等学校同窓会 【口座番号】 00110-9-17960

●価格 ①の場合1,000円 ②③の場合1,300円 送料共

## 第20回 同窓会ゴルフ大会結果報告

- 開催日 2013年5月12日(日)  
 ■ 開催場所 サンコー72カントリークラブ  
 ■ 参加人数 222名 ■ 当番幹事期 76期

### ○団体戦

#### 《グロスの部》

優勝 85期 332.0 準優勝 66期 335.0

#### 《ネットの部》

優勝 67期 288.4 準優勝 69期 288.4

### ○個人戦

#### 《NETの部》

| 順位 | 氏名    | 期別 |    |    | GROSS | HDCP | NET  |
|----|-------|----|----|----|-------|------|------|
| 1  | 石井 篤  | 67 | 41 | 42 | 83.0  | 13.2 | 69.8 |
| 2  | 櫻井 勝  | 62 | 42 | 45 | 87.0  | 16.8 | 70.2 |
| 3  | 立見 友孝 | 63 | 41 | 45 | 86.0  | 15.6 | 70.4 |

#### 《GROSSの部》

| 順位 | 氏名    | 期別 |    |    | GROSS | HDCP | NET  | コース別  |
|----|-------|----|----|----|-------|------|------|-------|
| 1  | 吉野 勉  | 69 | 38 | 42 | 80.0  | 8.4  | 71.6 | 赤城・妙義 |
| 2  | 佐藤 和徳 | 57 | 35 | 39 | 74.0  | 1.2  | 72.8 | 榛名・妙義 |
| 3  | 中島 文明 | 72 | 38 | 38 | 76.0  | 2.4  | 73.6 | 赤城・榛名 |



表彰式の様子

好天に恵まれ大変素晴らしい大会になりました。皆様のご協力により無事大会運営が行えましたことに感謝申し上げます。  
 大変有り難うございました。 76期 根岸赴夫

## ◆◆◆◆◆人事異動◆◆◆◆◆

(平成25年度)

### 《退任者・転出者》

理科 清水 哲郎 退職  
 家庭 曾根由美子 退職  
 英語 井田 夕子 退職  
 副校長 高橋 俊雄 新田暁(校長)  
 社会 曾根 秀朗 前橋南  
 数学 新井 功 渋川  
 理科 小野 智信 総合教育センター指主  
 体育 長竹 潤 高商  
 事務 木村 宏 万場  
 教頭 市川 敏美 副校長  
 事務(主) 粕川 知也 副主幹

### 《新任者》

教頭 森泉 孝行 桐女  
 社会 飯出 得男 前南  
 社会 井上 貴志 富高  
 理科 岡田 一朗 伊勢崎  
 理科 星野 貴紀 館高  
 体育 渡部健一郎 県教委スポーツ健康課  
 英語 紋谷 清実 富高  
 家庭 河田奈緒美 吉井  
 養護 宮内 彩 地公臨  
 事務 福室 秀和 新採用

### 通信制

### 《退任者・転出者》

社会 真下 和彦 退職  
 数学 中島 隆一 退職  
 体育 鈴木 喜八 退職  
 教頭 加藤富士人 太高教頭  
 事務 谷地田弘子 前商

### 《新任者》

教頭 飯塚 聡 県教委文化財保護課  
 社会 江原 邦博 高工定  
 数学 中島 英二 下仁田  
 体育 板橋 勝弘 清陵昼  
 事務 茂木 悦子 高北

## 高崎高校同窓会ホームページが近々リニューアル予定

高崎高校同窓生がより使いやすく、より親睦が図れるように同窓会ホームページをリニューアルいたします。特に今回の特徴としては、下記同窓会室所蔵本がデジタルブックやPDFファイルとしてホームページ上(iPad等のタブレット端末も含む)で順次閲覧ができるようになります。

- ・「群馬」(明治35年～)
- ・同窓会報
- ・記念誌
- ・翠樹体育会報 他検討中



交友会誌「群馬」



リニューアル予定のホームページ

## 平成二十五年 褒章・叙勲受章者 (敬称略)

### 〈文化功労者〉

舩岡 富士雄 (61期)

### 〈大臣表彰〉

厚生労働大臣表彰 山崎 恒彦 (71期)

文部科学大臣表彰 永井 和巳 (71期)

文部科学大臣表彰 羽鳥 進一 (現校長)

### 〈春の叙勲〉

旭日双光章 牧元 弘之 (54期)

瑞宝小綬章 中里見正夫 (52期)

瑞宝双光章 上原 隆充 (57期)

瑞宝双光章 金田 紺太 (59期)

### 〈秋の叙勲〉

旭日小綬章 原 浩一郎 (56期)

旭日小綬章 富岡 桂三 (60期)

旭日小綬章 友松 敬三 (61期)

瑞宝小綬章 秋谷 孟 (60期)

瑞宝単光章 堀口 克巳 (68期)

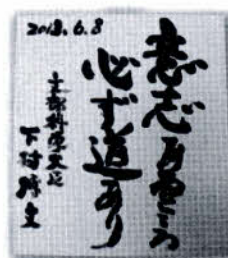
文部科学大臣

## 下村 博文 講演会

《教育再生担当 東京オリンピック・パラリンピック担当》

平成25年6月8日、第116回創立記念式典として、本校OBで現在文部科学大臣を務める下村博文氏(72期)による講演会が行われた。

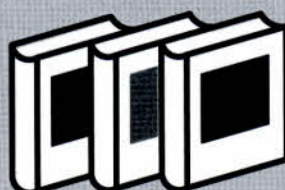
「心のスイッチをON」にして、満足のできる生き方を目指すことの大切さを高高生に熱心に語られた。「意志あるところ必ず道あり」という言葉から教育行政に対する飽くなき情熱を強く感じるとともに、各人が将来への夢や希望を強く抱くことができた充実した時間となった。



翠

～すいらんぶんこ～

戀文庫  
BOOK



### ◆翠戀文庫について◆

翠戀文庫は、著者または訳者が高崎高校の卒業生及び関係職員であり、本人またはその関係者から寄贈された図書で構成されています。

〈平成24年10月1日～平成25年9月30日〉

### ●著書／作者

- 「正義の国」の日本人 安井 健一(78期)
- 松岡外交 日米開戦をめぐる国内要因と国際関係 服部 聡(86期)
- 薙医の史実随感 研究者が老健医として診た日本 金井 芳之(59期)
- 遷都の陰陽師 迷宮城編 武内 涼(95期)
- 私の履歴書 柳澤 清(42期)
- 崩壊マニフェスト 中島 政希(71期)
- 知的財産権法概論 紋谷 暢男(54期)
- 知材、この人に聞く vol.4 紋谷暢男 紋谷 暢男(54期)
- 知的財産権法の現代的課題 紋谷 暢男(54期)

### ●著書／作者

- 知的財産権法・競争法論集 紋谷 暢男(54期)
- 知的財産権法と競争法の現代的展開 紋谷 暢男(54期)
- 拡散する美術 浅井 俊裕(80期)
- 法華座鋪談儀講義 井出 存佑解説(定13期)
- 「日本国憲法」なのだ！ 改訂新版 永井 憲一(49期)
- 道標なき旅程 赤塚不二夫
- 詩集 夢幻 枝窪 俊夫(67期)
- 秀吉を討て 角田 匡己(53期)
- 秀吉を討て 武内 涼(95期)

# 高高同窓会 予算決算報告

## 平成24年度 通常会計決算

(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

### 収入の部

| 費 目       | 予算額        | 決算額        | 増 △減      | 備 考                             |
|-----------|------------|------------|-----------|---------------------------------|
| 前年度からの繰越金 | 886,420    | 886,420    | 0         | 前年度から繰越金                        |
| 入 会 金     | 3,168,000  | 3,227,900  | 59,900    | 全日制321名(@9900)<br>通信制25名(@2000) |
| 維持会費      | 6,000,000  | 5,854,500  | △145,500  | 1866名                           |
| 利 息       | 980        | 977        | △3        |                                 |
| 雑 収 入     | 44,600     | 1,904,800  | 1,860,200 | 校歌CD・甲子園記念誌・名簿売上ほか              |
| 合 計       | 10,100,000 | 11,874,597 | 1,774,597 |                                 |

※繰越金の886,420円は、平成23年度繰越金1,886,420円から特別会計へ1,000,000円積み立てた後の残高です。

### 支出の部

| 費 目    | 予算額        | 決算額       | 残 額        | 備 考                    |
|--------|------------|-----------|------------|------------------------|
| 会 議 費  | 1,000,000  | 787,000   | 213,000    | 新年総会準備ほか               |
| 祝 賀 費  | 850,000    | 822,333   | 27,667     | 叙勲記念品・卒業記念品ほか          |
| 銭 別 費  | 300,000    | 170,000   | 130,000    | 23年度末離退職員銭別            |
| 慶 弔 費  | 200,000    | 25,750    | 174,250    |                        |
| 通信印刷費  | 420,000    | 424,249   | △4,249     | 維持会費督促状・納入札状・翠巒会館電話代ほか |
| 旅 費    | 100,000    | 100,000   | 0          | 東京同窓会出席者旅費             |
| 会報発送費  | 1,550,000  | 1,540,224 | 9,776      |                        |
| 同窓会報費  | 1,400,000  | 1,349,149 | 50,851     |                        |
| 事 務 費  | 1,500,000  | 1,360,152 | 139,848    | 事務職員人件費・事務用品ほか         |
| 同窓会長賞費 | 200,000    | 71,400    | 128,600    | 賞状・記念品ほか               |
| 補 助 費  | 1,600,000  | 1,600,000 | 0          | 翠巒体育会・生徒活動補助           |
| 環境整備費  | 500,000    | 220,500   | 279,500    | 指月庭およびバラ園の維持管理費        |
| 雑 費    | 300,000    | 237,625   | 62,375     | 維持会費等の振込手数料ほか          |
| 特別会計積立 | 0          | 1,000,000 | △1,000,000 |                        |
| 予 備 費  | 180,000    | 0         | 180,000    |                        |
| 合 計    | 10,100,000 | 9,708,382 | 391,618    |                        |

収入総額(円) - 支出総額(円) = 差引繰越残額(円)  
11,874,597 - 9,708,382 = 2,166,215

### 特別会計積立

|      |                 |             |
|------|-----------------|-------------|
| 収入の部 | 前年度からの繰越金       | 13,256,155円 |
|      | 平成23・24年度通常会計より | 2,000,000円  |
|      | 利 息             | 3,129円      |
|      | 合 計             | 15,259,284円 |
| 支出の部 |                 | 0円          |
|      | 当年度差引残額         | 15,259,284円 |

## 平成25年度 通常会計予算

(平成25年1月1日～平成25年12月31日)

### 収入の部

| 費 目       | 今年度予算      | 前年度予算      | 増 △減      | 備 考                |
|-----------|------------|------------|-----------|--------------------|
| 前年度からの繰越金 | 2,166,215  | 886,420    | 1,279,795 | 前年度から繰越金           |
| 入 会 金     | 3,168,000  | 3,168,000  | 0         | 全日制入学生320名(@9900)  |
| 維持会費      | 6,000,000  | 6,000,000  | 0         |                    |
| 利 息       | 985        | 980        | 5         |                    |
| 雑 収 入     | 614,800    | 44,600     | 570,200   | 校歌CD・甲子園記念品・名簿売上ほか |
| 合 計       | 11,950,000 | 10,100,000 | 1,850,000 |                    |

### 支出の部

| 費 目    | 今年度予算      | 前年度予算      | 増 △減      | 備 考                    |
|--------|------------|------------|-----------|------------------------|
| 会 議 費  | 1,000,000  | 1,000,000  | 0         | 新年総会準備ほか               |
| 祝 賀 費  | 850,000    | 850,000    | 0         | 叙勲記念品・卒業記念品ほか          |
| 銭 別 費  | 250,000    | 300,000    | △50,000   | 24年度末離退職員銭別            |
| 慶 弔 費  | 100,000    | 200,000    | △100,000  |                        |
| 通信印刷費  | 420,000    | 420,000    | 0         | 維持会費督促状・納入札状・翠巒会館電話代ほか |
| 旅 費    | 100,000    | 100,000    | 0         | 東京同窓会出席者旅費             |
| 会報発送費  | 1,550,000  | 1,550,000  | 0         |                        |
| 同窓会報費  | 1,400,000  | 1,400,000  | 0         |                        |
| 事 務 費  | 2,500,000  | 1,500,000  | 1,000,000 | 事務職員人件費・事務用品・資料整理費ほか   |
| 同窓会長賞費 | 100,000    | 200,000    | △100,000  | 賞状・記念品ほか               |
| 補 助 費  | 2,100,000  | 1,600,000  | 500,000   | 翠巒体育会・生徒活動補助           |
| 環境整備費  | 230,000    | 500,000    | △270,000  | 指月庭およびバラ園の維持管理費        |
| 雑 費    | 300,000    | 300,000    | 0         | 維持会費等の振込手数料ほか          |
| 特別会計積立 | 1,000,000  | 0          | 1,000,000 |                        |
| 予 備 費  | 50,000     | 180,000    | △130,000  |                        |
| 合 計    | 11,950,000 | 10,100,000 | 1,850,000 |                        |

### 特別会計積立

|      |              |             |
|------|--------------|-------------|
| 収入の部 | 前年度からの繰越金    | 15,259,284円 |
|      | 平成25年度通常会計より | 1,000,000円  |
|      | 利 息          | 3,716円      |
|      | 合 計          | 16,263,000円 |
| 支出の部 |              | 0円          |
|      | 差引残高繰越金      | 16,263,000円 |



#### 平成26年度維持会費納入のお願い

同封の振込取扱票により、郵便局又はコンビニエンスストアにて納入いただきますようお願いいたします。なお、ご住所、金額等を変更される場合は郵便局での扱いになります。(郵便局での納入は、できればATMのご利用をお願いいたします。)



#### 群馬県立高崎高等学校 同窓会報

発行人:佐藤 和徳

編集委員:田端 稔(54期) 吉永哲郎(54期) 大木紀元(58期)  
若山 享(58期) 熊野卓司(66期) 立見友孝(63期)  
新井重雄(78期) 關根秀仁(82期)

#### 編集 後記

同窓の皆様の多大なるご協力をいただき、会報第47号が発刊できました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。御多忙の中、貴重な原稿やお写真をお寄せくださりまして、まことにありがとうございました。(編集委員)